



## 令和2年度を振り返って

横浜市小学校教育研究会  
会長 相澤昭宏

今年度も昨年度に引き続き「社会に開かれた教育課程の創造・実践」～主体的・対話的で深い学びを実現する授業力の向上と研究交流の広がりをめざして～という研究主題のもと、各研究会には知恵を働かせ、工夫を凝らして研究活動に取り組んでいただきました。

この研究集録には、様々な課題や不安を抱えながらも、研究の灯をけさないという強い思いの中で、実施された多くの実践や研究の跡が集められています。

ぜひ、各研究会で成果のあった取組を広げ、今後に生かしていただきたいと思えます。

今年度、新型コロナウイルスが私たちの生活や教育活動に大きな影響を及ぼす中、改めて、学校の存在意義や価値が改めて見直されたと言えます。

一方、ポストコロナを見据えると、一斉の対面学習だけでなく、リモート学習やICTを使用した自学ノート等学習スタイルの多様化が予想されます。そのとき重要ことは、子どもがどのようなスタイルでも学習の必要性を感じて主体的に学ぶ力を備えているということです。言われたことや、与えられた課題にしか向かえないのでは、そのようなさまざまな学習スタイルの成立は極めて難しいと言えるでしょう。

そういう意味でも、新学習指導要領の基本理念である主体的、対話的で深い学びを創っていくということが必要であり、私たちはそこに向かって実践と研究を進めていかなくてはならないということです。

横浜の歴史と実績のある各研究会が知恵を出し合い、さらに盛り上げながら、皆で研究し実践を積んでいきたいと思えます。

さて、本年度は、これまでの研究活動に加えて、次のようなことにも組織的に取り組んで参りました。

### 【年間指導計画の再編成支援】

各学校が一斉休校後の教育課程再編成に活用できるように、各教科等の研究部会が年間指導計画の再編成例を作成し、小教研ホームページに掲載。

### 【GIGAスクール構想の実現に向けたプロジェクトの発足】

前倒しになったGIGAスクール構想実現に向け、各教科部会等から委員を選出し、スムーズな導入及び各教科等での効果的な活用例を検討。

小学校の学習指導要領の理念の実現に向けて、また、教職員が互いに学び合う場として、ますます小教研の役割は重要になってくることと思えます。今後もより一層運営の充実を図ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。